我々の未来とジェネリック

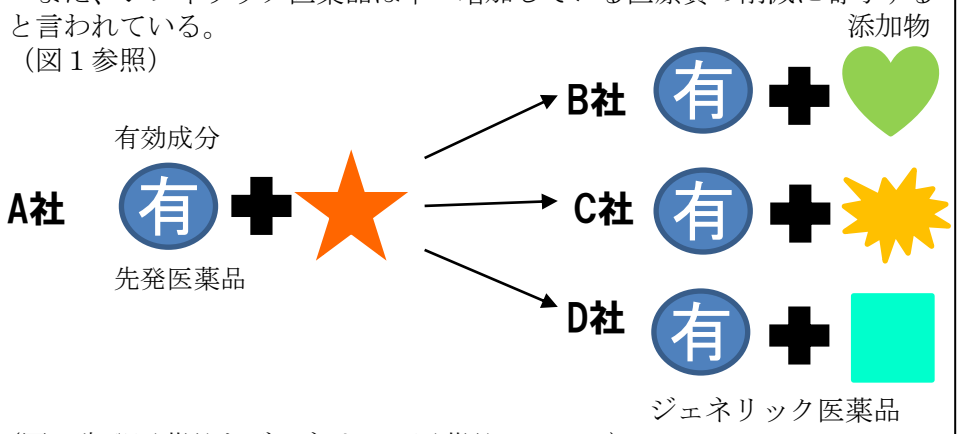
所属　D-5班

１．目的・仮説

目的
ジェネリック医薬品について正しく理解している人が少ない
→ジェネリック医薬品が普及しない理由を調べて発表し、ジェネリック医薬品について広く知ってもらう。
仮説
・新薬と同じような臨床試験は行われておらず、患者の不信感が拭えない。
・今までの薬のほうが安心だと思う人が多い。

ジェネリック医薬品とは？

特許が切れた先発医薬品（新薬）を他の医薬品メーカーが同じ有効成分で製造し、低価格で販売している医薬品。
また、ジェネリック医薬品は年々増加している医療費の削減に寄与すると言われている。
（図１参照）

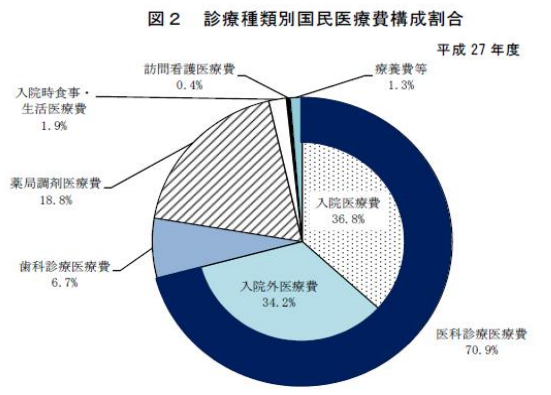


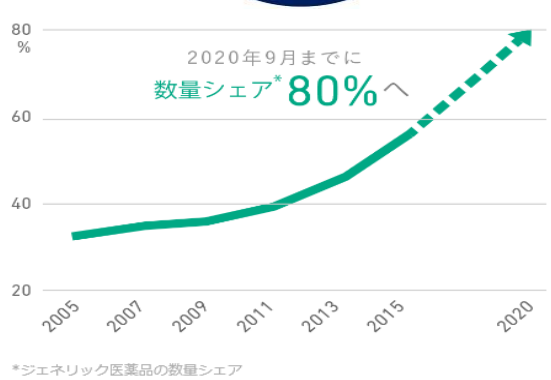
（図１先発医薬品とジェネリック医薬品について）

２．材料と方法

現在、日本では、厚生労働省によってジェネリック医薬品の使用が推奨されている。その背景には、国民医療費の増加がある。国民医療費のうち、18.8%が薬局調剤医療費である。高齢化が進むとその医療費の割合が増えていくことになるが、ジェネリック医薬品によって、国民医療費を削減することができる。（図2参照）

また、日本は他の先進国と比べて、ジェネリック医薬品の普及率が低いため、政府は2020年9月までに普及率80%を目指している。（図3）





（図3）ジェネリック医薬品の普及率

まとめ・結論

・ジェネリック医薬品は先発医薬品と同等でありながら安価である。
→日本の増加していく医療費を抑えられる。
・さまざまな臨床試験を受けているため安全。

現在日本で、あまりジェネリック医薬品が普及しないのは、ジェネリック医薬品について間違った知識を持っている人がいたり、そもそもジェネリック医薬品のことを知らない人がいるからというのが大きな理由だと思われる。

普及のために、私たちはそういった人々の意識から変えていくのが最善だと思う。そのためには、病院にポスターを設置したり、薬局で周知させるなどの現在の取り組みに加え学校や自治体で講習会を開いたりするとよいと考える。

３．結果・考察

日本のジェネリック医薬品普及率は、欧米諸国と比べて、大きな差がある。普及しない理由として挙げられるのは、ネット上の意見だとジェネリック医薬品は安価なため、安かろう悪かろうだと思っていたり、そもそもジェネリック医薬品が何なのか知らないという意見があった。

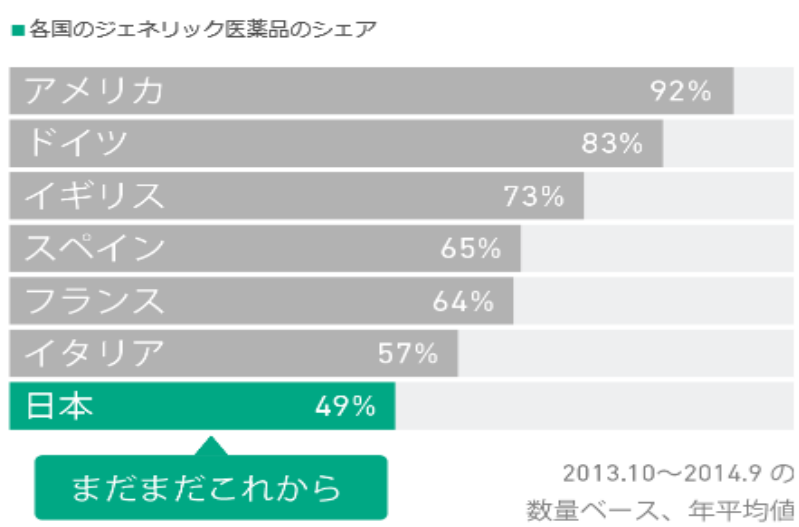
ジェネリック医薬品の利点として挙げられるのは、先発医薬品と同等でありながら、価格が安価であるというところである。これは、新薬開発には約数百億～数千億かかると言われているが、ジェネリック医薬品は元から開発された成分から作るので、研究開発費をあまりかけずに安価で売ることができるからだ。

現在の日本の国家予算の約五割を占める医療費の削減につながる。今後、高齢化が進行すると予想される日本にとって喜ばしいことである。

しかし、ジェネリック医薬品に反対の声もある。ジェネリック医薬品は、先発医薬品と完全に同じではないものもある。主作用の成分は先発医薬品と同じだが、それ以外の成分は違うことがあるのだ。

だが、規定の試験によって厚生労働省の認可を得て、その効果の同等性が認められており、ジェネリック医薬品は安心して飲めるものなのである。

ジェネリック医薬品は、成分特許期間満了後、新薬と効き目が同等であることを証明する様々な試験、原薬・製剤の品質の試験、安定性の試験（長期保存について等）、生物学的同等性試験を実施し、厚生労働省の承認を得て製造・販売されている。



（図4）各国のジェネリック医薬品のシェア

参考文献

https://www.daiichisankyo-ep.co.jp/whats_generic/数字で見るジェネリック（参照　2018,9,14）
www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/0000068975.pdf厚生労働省 国民医療費の概況（参照　2018,9,21）
https://www.iyaku-j.com/index.php?main_page=index&cPath=5_1_15 誤認－“似て非なるもの”を“同じ”と混同してはならない－（参照　2018,9,21）
http://www.nihs.go.jp/dbcb/biosimilar.html国立医薬品食品衛生研究所（参照　2018,9,14）
https://diamond.jp/articles/-/149894「ジェネリックは貧乏人向け」厚労省のその感覚が普及を妨げる（参照　2018,9,14）